

Taketa City Gikai News

NO.37

平成27年2月1日発行

たけた 市議会だより

- 予算特別委員会を終えて 2
- 10月・11月臨時会、12月定例会 議決結果 3
- 一般質問 4～10
- 行政視察報告 11

竹田市 成人式



平成26年第4回定例会は、12月4日から24日までの21日間を会期として開かれました。この定例会では、初日に18案件の議案等が提出され、条例の制定・一部改正、補正予算のほか、陳情を含む合計21案件について審議を行い、それぞれ別記のとおり決定しました。



一般会計 4,165万2千円 減額

総額208億9,451万3千円に

主な補正予算の概要

【歳出】	総務費	機械器具購入費（コミュニティバス）	△255万円
		農業委員会委員選挙費	△898万2千円
民生費		国民健康保険特別会計繰出し	2,159万5千円（県補助事業3/4）
		「食」の自立支援事業委託料（配食サービス）	3,010万円
農林水産費		被災農業者向け経営体育成支援事業費補助金（雪害の椎茸ハウス等）	△4,081万8千円
		直入荘事業特別会計繰出金	△1,620万7千円
教育費		岡城跡保存修理工事請負費	827万2千円
災害復旧費		農地災害復旧工事請負費	△3,600万円
【歳入】	市税	市民税・固定資産税	3,872万5千円
	使用料及び手数料	商工使用料（花水月入館料ほか）	442万8千円

平成26年
第4回定例会平成26年12月4日～21日
議案・陳情の議決結果

条 例 案		
議案番号	件 名	結果
議案第111号	竹田市公有林保護事業実施条例の一部改正について	可 決
議案第112号	竹田市国民健康保険税条例の一部改正について	可 決
議案第113号	竹田市国民健康保険条例の一部改正について	可 決
議案第114号	竹田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の制定について	可 決
議案第115号	竹田市社会教育委員条例の一部改正について	可 決
予 算 案		
議案番号	件 名	結果
報告第 7 号	専決処分事項「平成26年度竹田市一般会計補正予算(第8号)」について	承 認
議案第102号	平成26年度竹田市一般会計補正予算(第9号)について	可 決
議案第103号	平成26年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第104号	平成26年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第105号	平成26年度竹田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第106号	平成26年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第107号	平成26年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)について	可 決
議案第108号	平成26年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第4号)について	可 決
議案第109号	平成26年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計補正予算(第4号)について	可 決
議案第110号	平成26年度竹田市水道事業会計補正予算(第4号)について	可 決
一 般 案		
議案番号	件 名	結果
議案第116号	市営住宅の指定管理者の指定について	可 決
議案第117号	竹田市福祉施設はくすいの指定管理者の指定について	可 決
議案第118号	字の区域の変更について	可 決
陳 情		
議案番号	件 名	結果
陳情第 1 号	「城下町再生プロジェクト」に関する陳情	不採択
陳情第 4 号	竹田市公共施設における竹田産木材を主とした地域材の活用に関する陳情	採 択
陳情第 5 号	障害福祉サービス事業所創設に関する補助金交付等陳情	採 択

平成26年
第3回臨時会平成26年10月21日
議案の議決結果

予 算 案		
議案番号	件 名	結果
議案第 91号	平成26年度竹田市一般会計補正予算(第6号)について	可 決
議案第 92号	平成26年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計補正予算(第3号)について	可 決
一 般 案		
議案番号	件 名	結果
報告第 6 号	専決処分事項「平成25年度竹田市新消防庁舎建設Ⅱ期(建築主体)工事請負契約の一部変更」について	承 認

平成26年
第4回臨時会平成26年11月20日
議案の議決結果

条 例 案		
議案番号	件 名	結果
議案第 99号	竹田市議会議員報酬及び費用弁償条例等の一部改正について	可 決
議案第100号	竹田市子どものための教育・保育給付及び支給認定等に関する条例の制定について	可 決
議案第101号	竹田市萩老人福祉センター条例の一部改正について	可 決
決 算 認 定 案		
議案番号	件 名	結果
認定第 2 号	平成25年度竹田市一般会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第 3 号	平成25年度竹田市立こども診療所特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第 4 号	平成25年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第 5 号	平成25年度竹田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第 6 号	平成25年度竹田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第 7 号	平成25年度竹田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第 8 号	平成25年度竹田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第 9 号	平成25年度竹田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第10号	平成25年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第11号	平成25年度竹田市国民宿舎久住高原荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第12号	平成25年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
予 算 案		
議案番号	件 名	結果
議案第 93号	平成26年度竹田市一般会計補正予算(第7号)について	可 決
議案第 94号	平成26年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第 95号	平成26年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第 96号	平成26年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第 97号	平成26年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第 98号	平成26年度竹田市水道事業会計補正予算(第3号)について	可 決

あなたの声を市政に

一般質問

12月10日・11日、9人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。
なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。



一般質問の主な内容

①山村 英治（無会派）

1. 地方創生事業の取組について
2. 観光資源の掘り起しについて
3. 農業振興策について

②阿部 雅彦（新風会）

1. 林業の振興について
2. 空き家対策について
3. 男女共同参画の取組について

③足達 寛康（清風会）

1. 有害鳥獣対策について
2. 指定管理者制度について

④後藤 憲幸（清風会）

1. 農政について
2. 柏原公民館について

⑤佐田 啓二（緑風会）

1. 空き家対策について
2. ラグビーワールドカップとオリンピックのキャンプ誘致について
3. 直入荘の改修計画について

⑥吉竹 悟（仁政クラブ）

1. 観光に結び付く環境政策について
2. 竹田市の経済状況の改善策は

⑦鷲司 英彰（新生会）

1. 居住環境の安全確保について
2. 医療システムについて

⑧佐藤 美樹（仁政クラブ）

1. 不妊不育治療への助成・支援について
2. 児童虐待防止への取組について
3. カボスの振興策について
4. 新図書館建設計画について

⑨渡辺 克己（新生会）

1. 農業問題について
2. 学校給食について



地方創生事業の取組について

問 国策の地方創生に対する竹田市の戦略を問う。

市長 農業振興、社会保障については、九州知事会、市長会と一緒にあって課題に取り組んでいく。温泉力ある全国の自治体と協力して国に働きかけ、先駆けて進めてきた温泉療養保健制度活用を、地方創生の活路の一つとしていく。市民との対話による政策提案型行政を基本として、国の地方創生事業に連動して、更に移住・定住・既住の推進に取り組む、アートレジデンス構想や、健康一直線、子育て一番宣言に基づいた若者誘導政策を推し進めていく。

問 これからの移住・定住政策について問う。

市長 平成23年度に策定した竹田市住宅マスタープランを基にして、定住促進ビジョン作成に取り組んでお

り、中九州高規格道路開通後の竹田、久住地区でのニュータウン構想に基づいた宅地造成を進めていく。

問 市内に在る空家対策として、買上げて改修し貸出す構想はないか。

市長 コンパクト・シティ構想とあわせて、現在、竹田商工会議所等と一緒に検討をしている。

観光資源の掘り起しについて

問 「陽目の里」の今後の観光戦略について問う。

市長 岡藩の時代から名瀑として名を残す白水の滝は、必ず世に出していきたい。名水茶屋は、アートレジデンス作家に古民家としてアドバイ



▲白水の滝

スを受け、キャンピングパークは、竹田市のゲストハウスや就農者のミニタウンに可能かと考えている。名水を利用したウイスキー醸造の試行希望者も現れている。地域の人たちと協議しながら進めていく。

農業振興策について

問 由布市は、県営事業農家負担滞納償還金を、条例に基づいて市財政を充当するが、菅生地区の連帯保証問題を再検証できないか。

市長 必要とあれば、弁護士の方も参考にしながら再検証していく。ほかに、入札制度改革について質問をした。



林業の振興について

問 竹田市公共建築物等における地域材の利用促進に関する基本方針の取組状況は。

林業振興室長 最近では、子育て支

援住宅、入田分館・玉来分館・松本分館、竹田幼稚園の建築で地域材が使用されており、その利用促進の機運が高まってきている。

問 これから建築予定の公共施設には、どのような適用を考えているのか。

総務課長 各施設の目的・利用形態・建築費用・建築後の維持管理を総合的に考えながら地域材の活用を図りたい。

問 図書館建築においては、「木育」の立場から、より地域材の活用が必要ではないか。

図書館長 新しく出来上がってくる基本設計の中で、地域材による温もりのある建物づくりを考えていきたい。

問 木質バイオマスセンターの建設に再挑戦してみてもどうか。

企画情報課長 木材の伐採・搬出、加工所や供給地までの流通、加工する製品の種類、林業者との良好な関係等の課題を検証し、取り組みたい。

空き家対策について

問 空き家実態調査の結果から、どのような課題を解決していくのか。

総務課長 調査した空き家を倒壊の危険度別に、A～Dまでの4段階の評価を行なっている。今後については、市が所有者と空き家の適正管理や有効活用について考え、倒壊危険家屋除去については補助金制度を設けたい。

男女共同参画の取組について

問 竹田市男女共同参画推進大会の総括は。

人権・同和対策課長 本年度は、竹田市PTA連合会の協力も得て、会場の社会福祉センターには二百名を超える多くの参加があり、有意義な大会となった。



▲地域材を利用した竹田幼稚園

問 男女共同参画プランの今後の展開は。

人権・同和対策課長 男女共同参画を目指す民間団体とも連携し、プランを推進したい。



足達 寛康

有害鳥獣対策について

問 竹田市の協議会を設置しては。

農政課長 既存の県協議会に対応し、市民には随時周知、啓発をしていく。

問 近年の電柵の申請状況はどうか。

農政課長 県、市単で平成25年、328基、26年473基と増加している。

問 捕獲奨励金を通年同額にしてはどうか。

農政課長 前向きに検討していく。

問 佐伯市の餌付作戦と成果はどうか。

農政課長 自然の中で餌で誘い、捕獲する。成果は2年間で2頭である。

問 市独自の対策はあるのか。

農政課長 現状の防御策と捕獲体制で。

問 高崎山で実施のホルモン剤入りの餌で繁殖を抑える事が出来ると聞くと、導入してはどうか。

農政課長 関係機関や獣医、自然保護団体との協議が必要である。

指定管理者制度について

問 制度に係る総施設数、その内収益事業目的の施設はいくつあるのか。

総務課長 総施設数は58か所、収益事業目的の施設は24か所である。

問 収益事業施設の収支を把握しているか。また長年管理料を支出している施設数と責任者は存在するのか。

総務課長 収支は毎年事業報告書で把握している。管理料は8か所に支出、管理料不支出の施設は協定書により費用と負担に応じ対処している。また、7か所に施設長がいる。

問 管理料支出の算定基礎は何か。

総務課長 算定基礎は、当初から利用料金収入のみで、施設の管理運営を賄えない時は協定書により指定管理料を支出している。

問 制度開始後、施設も老朽化して



▲指定管理施設の一つ「久住高原荘」

おり、地域の小施設では運営に困っているところもある。今後の指導と対応をどう進めていくのか。

市長 老朽化が懸念される施設もあるが、継続して経営を行って行く為に助言指導を行う。

特に、小施設は見直しの時期が来ているので、管理者と協議の上、改革の意識を持って、今後の方針を判断する必要がある。



農政について

問 今年の米価は半値以下に下落した。このままでは耕作放棄地が出て来る。県も支援の予算化をした。作付奨励金等の創設は出来ないか。

農政課長 今年の米価概算金は昨年より1430円安くなっている。国の支援策として10アール当り7500円の補填事業がなされている。奨励金については他市の状況を見ながら対応していきたい。

問 機械の共同化の推進をしてはどうか。

農政課長 これからの稲作については、経費の節減のため、共同化の積極的な施策を進めて行く。

問 中山間直接支払い制度と、農地水保全管理制度の加入状況と加入していない所の加入奨励をしてはどうか。

農政課長 中山間直接支払い制度は

5年間を一对策期間、本年度3期目の最終年になっている。加入状況は185組織（支払総額5億3300万円）になっている。27年度からは4期目が始まる予定である。2月に行われる営農座談会で未加入地域の推進を図りたい。

柏原公民館について

問 柏原で唯一の公共施設である公民館は、長い年月が経ち、屋根等の改修時期が来ているが、改修計画を立ててはどうか。

生涯学習課長 この施設は昭和60年に建設され30年経過している。雨漏りしている。来年度、屋根の改修計



▲柏原公民館

画を立てる。

問 地域の方から公民館管理者の配置を望む声がある。要望に答えてはどうか。

生涯学習課長 平成17年市町合併時、管理者の配置をやめた。現在は萩公民館で対応している。

その他市税、国民健康保険税について質問した。



空き家対策について

問 空き家の所有者把握は。

総務課長 そのまま使えるAランクから危険なDランクまで、373棟の内134棟は把握できている。

問 危険家屋解消の施策について

総務課長 老朽危険空き家等除却促進事業補助金制度の創設に向けて準備を進めている。内容は危険家屋の除却に対し、50万円を限度に事業費の2分の1を補助、年間10棟分（500万円）の予算を予定している。

〈平成25年度空き家実態調査結果〉調査対象家屋全403棟

総合評価	棟数	地域別の内訳			
		竹田地域	萩地域	久住地域	直入地域
A	142	100	15	20	7
B	153	109	7	21	16
C	60	52	1	5	2
D	18	12	1	3	2
その他	30	25	1	3	1

A:建物に目立った腐朽破損はないが空き家の状態となっており今後の利活用が見込まれるもの
B:外壁や屋根、窓等に腐朽破損が認められるが、一部修繕すれば利活用が見込まれるもの
C:建物の傾き、外壁、屋根等の腐朽破損が著しく、倒壊の恐れが認められるもの
D:上記「C」でかつ倒壊した場合隣接建物に影響がある又は前面道路の通行等に影響があるもの
その他:調査時点居住者あり、改装中、調査拒否等

ラグビーワールドカップとオリンピックのキャンプ誘致について

問 2019年ワールドカップ、2020年オリンピックの日本開催が決まっている。大分県は試合会場に名乗りを上げている。竹田市はキャンプ地として有力であるし、あらゆる面で竹田市の浮揚策につながる。積極的に誘致活動をしてはどうか。

生涯学習課長 竹田市ラグビーフットボール協会から誘致の要望書が出

されたことから、誘致が可能かどうかを検討した結果、ラグビーとマラソンのキャンプ地として誘致を進めることとして、大分県に意向を伝えた。今後は官民一体となった取組が必要と考える。

直入荘の改修計画について

問 二度にわたる不落札の原因は何か。

入札・検査課長 ①各社とも技術者、作業員が不足している。②人件費や建築単価が急上昇しており、公共工事の設計単価が実態に追いついていない。③改築工事はリスクが大きく、受注を避ける傾向にある。この3点が考えられる。

問 設計料・工事費が当初の2億4600万円から4億600万円まで膨れ上がってきたが、白紙に戻すことは選択肢の一つではないか。

市長 総務省の新築・増築は禁止するという従来の解釈から、既存の場所で温泉棟や浄化槽が残るならば、また、地域の理解が得られているならば許可するという新たな見解が得られた。これをもって展望を開いていきたい。

吉竹 悟



観光に結び付く環境政策について

問 市道管理（除草）は、各自治会が行っている道路を除き、業者委託をしているが、作業回数は適切か。

建設課長 現在市道は、1042路線1110キロメートルある。この内約800路線770キロメートルは、229の自治会にお願いし、年2回程度除草をして頂いている。業者委託は、58路線127キロメートルで一部を除き年1回の委託をしている。自治会の除草には、年270万円程の予算でお願いしている。業者委託については、合併当初は、7路線34キロメートルを300万円で委託していたが、現状では、58路線で1200万円と4倍になっている。さらに、業者委託分は、交通量が少なく沿線に集落が無く、自治会対応が困難な箇所です予算効率面ではマイ



▲業者委託による除草作業の様子

ナスである。委託単価は本年見直しを行い、1平方メートル当たり33円であるが、県道の委託契約と比べると、3分の1の単価である。このようことから、市道の除草管理は適切だと言えない。

竹田市の経済状況の改善策は

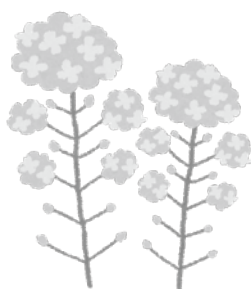
問 商工業の現状は依然厳しい。特に建設業の現状は著しく低迷している。多くの市民を雇用している中小企業の育成に力を入れるべきではないか。毎年税収は減収となっているのが現状である。高度成長期には、1億円の投資をすれば、10億円の経済効果があると言われていた。近年

では5倍から8倍ぐらいの効果であるうが、それが税収を底上げするのであれば、行政として投資するべきだと考えるが如何か。

市長 竹田市の商業・観光・農業を絡めた全体的な経済の浮揚対策をしていかなければならない、という提言を含めた質問があった。今後は、伸び代があると言われている観光分野、具体的には、岡城の再生・城下町の再生、大船山の登山バス、ウェイクボード事業等を推進しながら、就業機会を作り上げていく。ここが大きなポイントだと考えている。

道路とか岡城とか、環境整備等を図ることも必要だが、就業の場を作るための対策として、財政の全体的な中で、積極的に取り組む必要があるか考えていく。数字的にどこまで許されるかを勘案しながら新年度予算を考えていく。

このほか職員の育成について質問した。





居住環境の安全確保について

問 崖や急傾斜地の崩落等の心配がある地域及び場所はどれくらいあるか。

建設課長 土砂災害防止法に基づく急傾斜地崩壊危険箇所は、人家が5戸以上の箇所は325、5戸未満が928となっている。人家はないが横に100メートルを超える斜面を有する箇所が10か所、合計1263か所ある（工事完了部分を含む）。

問 危険箇所の補修には各種補助があるが、その内容について。

建設課長 危険箇所の要件は傾斜角度が30度以上、高さが5メートル以上、また自然斜面であることとなっている。通常事業の場合、保全人家の戸数によって、事業が国や県または市の対応に分かれている。また土地は無償提供で、県や市の事業に関



▲急傾斜対策工事後の例

しては、受益者負担も発生する。
問 補助対象事業は年間どのくらいあるのか。また、その優先順位はどのように決まるのか。

建設課長 現在、国の補助事業で4地区、県の事業で2地区推移しているが、1地区が完成まで4～5年かかるためになかなか新規の地区に取り組めない。

また、市の単独事業として平成23・24年に3000万円の予算処置をしたが、豪雨災害により現在は中断している。申請件数は現在51か所残っている。工事の優先順位は原則申請された順番。しかし被災履歴等から、順番が変わることもある。

医療システムについて

問 救急医療体制の整備に向けた「医師の確保」をどうするのか。

健康増進課長 残念ながら医師の数は増えていないのが現状。「2次救急医療体制」整備に向け、医師会内の理解と合意の上で、県と連携を密にしながら、市としての役割を果たして行く。

市長 医師確保に向け医師会挙げての取組があるならば、財源の確保等、市としての協力体制は構築していく。

このほか地域おこし協力隊についても質問した。



不妊不育治療への助成・支援について

問 不妊不育治療の相談件数と治療費助成制度の申請実績は怎么样了るか。

健康増進課長 相談件数は平成24年

度9件、平成25年度11件。制度利用数は10年間で86件。

問 不妊不育症に対する周囲の理解・周知推進と、当事者への心のケアをどう行うのか。

健康増進課長 市報と市ホームページ、ケーブルテレビで制度や正しい知識を広報する。保健師と県の専門カウンセラーとで相談を受け、不妊不育で悩む方々を支援していく。

児童虐待防止への取組について

問 当市における児童虐待の実態と件数は。

福祉事務所長 昨年度の対応延べ件数60件、実世帯数7件。内容は心理



的虐待42件、身体的虐待9件、ネグレクト（育児放棄）9件。

問 改善に向け、どう対応しているのか。

福祉事務所長 通告を受け24時間以内に訪問・面談を実施し、児童の安全確認を行う。継続的見守りが必要な場合は、児童相談所、警察、健康増進課、学校教育課等関係部署と協議する。民生・児童委員の協力も発見・未然防止の大きな力となる。また、地域子育て支援施設と訪問型子育て支援の充実を図り、育児の悩みを気軽に相談できる体制を作る。

カボスの振興策について

問 カボス農家の戸数と生産量は。
農政課長 農家戸数は169戸、10年前より45戸減り、生産量は602トンで約半分となった。

問 後継者育成、販路拡大の取組は。
農政課長 カボス講座を開き、37名の受講者がいる。首都圏や福岡、姉妹都市を中心に試食宣伝活動を行い、6次産業化を進めている。

新図書館設計画について

問 これまでの経過は。今後どう進

めるのか。

図書館長 市条例に則り、7名の審査委員を委嘱。7月に応募開始、10月の2次審査で5名に絞り込み、11月2日に公開プレゼンテーションを開催。提案内容を純粋に審査し、最優秀者を決定。市民の声を取り入れ、進めていく。



農業問題について

問 24年度から始まった農地集積による規模拡大や、若者の新規就農の促進に向けて、マスタープランである「人・農地プラン」の作成が義務付けられているが、今までにプラン作成をした集落数はいくつか。また、青年就農給付金の給付状況はどうか。
農政課長 竹田市全体303集落の内、作成済みは47集落である。青年就農給付金対象者は、24年度8名、25年度2名増の10名、26年度4名増の14名である。



問 26年度の国の資料によると、親元就農が取り組み易くなっているのではないのか。青年就農給付金受給は45歳以下であり、家庭的に世代交代の時期と思われる。親元就農についてどのように考えるのか。

農政課長 国要件は緩和された部分もあるが、農家自体の経営規模や経営作物が違うなど、難しい部分があるため、親元就農計画の情報を把握し、戸別に指導推進をしたい。

問 高齢を理由に離農する農家の農地や、農業機械を受け継ぎ、就農させるための情報提供や支援が必要と思われるがどうか。

農政課長 必要な事であり県農業会議等で検討を始めている。新規就農者との調整に時間を要し、諸問題も多いので慎重に対応したい。

問 市の畜産は、農家数、飼養頭数とも大きく減少している。現状を維持することが重要であるが、飼料生産において機械、作業の共同化を促してはどうか。共同組織の機械購入に補助を出すことで、コスト縮減とし、増頭に結びつけてはどうか。

畜産振興室長 肉用牛生産プロジェクト会議において県・市単独事業として検討してきた。

学校給食について

問 学校給食の中央調理場で、長期間、県派遣栄養士が不在と聞くがどのような対応をしているのか。

学校給食調理場長 病気休暇となっている。久住・直入調理場の栄養士の協力を得て献立等実施している。

問 異物混入事件について聞く。情報開示についてはどうか。

学校給食調理場長 9月以降3件の異物混入があった。

学校総務課長 情報開示は県で統一の基準が示される予定である。

行政視察報告

議会改革調査 特別委員会

委員長 佐田 啓二

平成26年10月30日、31日佐賀県嬉野市と鹿島市で議会改革の視察研修を行った。

嬉野市は2012年の日経グローバル誌で、議会改革度全国3位にランキングされている。ホームページ



▲嬉野市視察

では議案の詳細を見ることができし、採決における個人ごとの賛成・反対の状況まで開示している。平成25年9月議会からUストリーム（音声や動画を転送・再生するダウンロード方式の一種）を導入したことで画質・音声が向上、投票による採決が画面上で確認できる。また、いつでもどこでも見ることができるという利点がある。

特徴的な事例として、予算特別委員会の議案質疑に通告制を採用していることが挙げられる。通告するためには、議員の事前の研究が必要であり、議員の資質の向上が図られたこと。また、質疑の内容が充実し、活発な議論が行われるようになったそうである。

また、自ら行う議会改革の状況について、自己評価に加え、外部評価にも取り組み、検証を行うとともに議会基本条例の見直しを行っている。鹿島市は祐徳稲荷で有名である。

やはり、日経グローバル誌で議会改革度全国20位にランキングされている。こちらも、ケーブルテレビやUストリームを導入している。Uストリームでは発言の修正ができない



▲鹿島市視察

め、不穏当発言が減ったという。

議会基本条例の運用の面で、特に際立った事項は、「市長による政策等の形成過程の説明」の実現を図るために、その条文の運用に限定した確認書を、市長との間で交わしていることである。市が提案する計画、政策、施策、事業等について、議会に対し詳しく説明を行うことを求め、審議を深めている。

特別委員会の委員は、私を含め5名だが、各委員には竹田市に持ち帰り実践すべきものを最低一つは提出するよう要請し、研修に臨んだ。各委員から出された改革案については、

第16回・第17回議会改革調査特別委員会で検討し、早期に実施したい事項3項目と、順次改革を進めたい事項8項目としてまとめ、「議会改革に関する要請書」を議長に提出したところである。

両市の先進的な事例を参考に、今後も議会改革調査特別委員会の中で研究を重ね、この研修の成果として、市民に開かれた議会を更に進めたいと思う。

竹田市議会でも、 全国から市町村議会議員の 行政視察を受け入れています。

受入実績(平成26年1月～12月)

総 数 ■ 21議会

常任委員会・特別委員会(9)、
会派・個人議員(12)

人 数 ■ 延べ131人

研修内容 ■ 介護予防強化推進事業について、農村回帰宣言・
定住促進の取組について、竹田市新生ビジョンに
ついて、文化財保護事業について 等



今回も竹田市議会は寸劇に挑戦した。演目は、「喜劇白雪姫」だ。議員18名全員参加の総力戦で挑むこととした。練習時間は、週2回の1か月間。忙しい議員各位。練習日になかなか全員揃わない。しかしながら、何とかセリフを覚え、衣装と化粧と小道具に力を入れての本番となった。今年の会場は、直入公民館だ。寒さ厳しい中ではあったが、会場には多くの市民の皆さんに集まっ

舞台監督 阿部 雅彦

チャリティーショー を終えて



◀ 姫の競演



て頂いた。竹田市議会の出番は、午前の部と午後の部の2回。これまで時代劇に挑戦することが多かった市議会の寸劇だけに、今回の「白雪姫」はある意味冒険でもあった。それでも本番に強い役者揃いの市議会。会場の市民の皆さんの笑いをしっかりと取りながら、何とか無事に2回の寸劇を終えることが出来た。会場やケーブルテレビの前で温かい拍手をして頂いた皆様に感謝し、次回への決意を新たにしたい。

議会を傍聴に いらっしゃいませんか

所定の受付簿に住所・氏名等を記入するだけで、本会議や各委員会を傍聴することができます。どうぞ、お気軽においでください。

また、ケーブルテレビでも定例会初日の提案理由の説明と、一般質問及び代表質問の中継を行っています。

傍聴席には限りがあるため、希望が多い場合にはご希望に沿えないこともあります。

国は「地方創生」を掲げ、アベノミクスを推進しているが、実際の地方では多くの課題を抱えている。農業においては、過去最低の米価や鳥獣害。少子高齢化も深刻な問題である。しかし、ため息ばかりついていては始まらない。竹田には明るい話題もある。雑誌社のランキング調査で「チャレンジしたい若者におすすめの田舎」全国で1位、「住みたい田舎」6位という評価をいただいた。この評価に応えるべく、住みよいまちを目指し、議会も真剣に取り組んでいきたい。

編集委員 中村憲史

あとがき

postscript



市議会 ホームページ

本会議の会議録や議会の日程、質問項目、議会のしくみと役割など様々な情報を掲載しています。



竹田市議会

検索